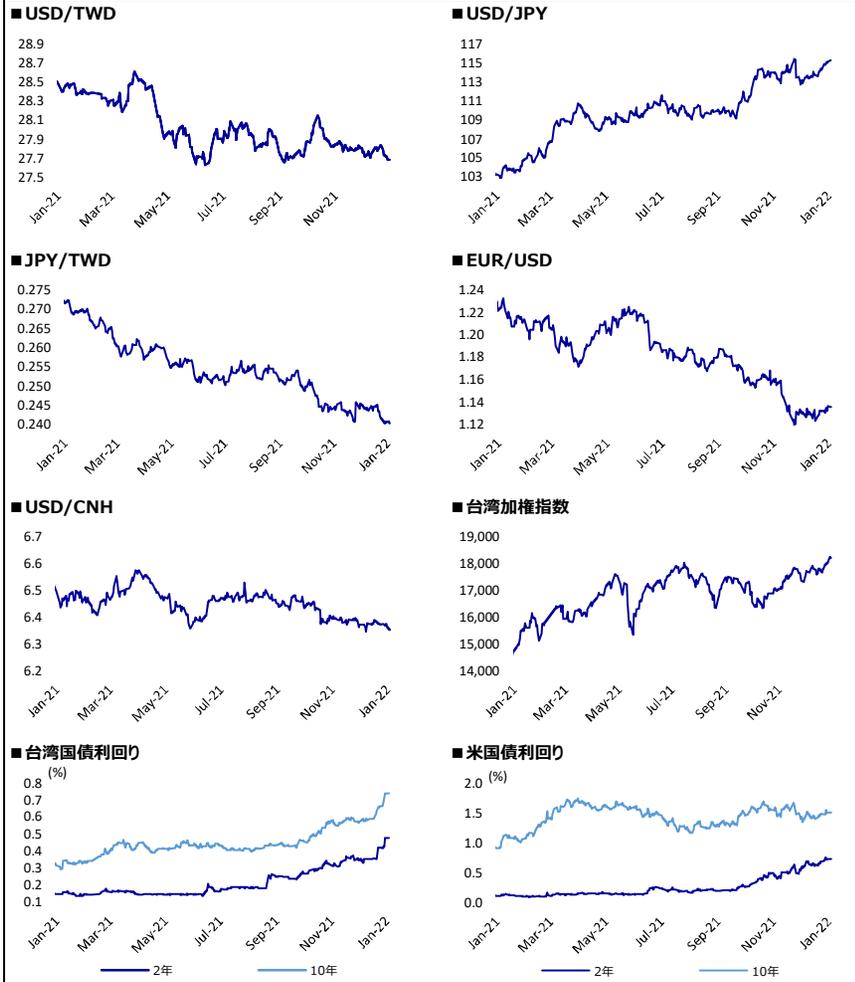


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは台湾加権指数が最高値を更新する中、年末でもあり、台湾ドル買いが優勢に。週初12/27は27.740でオープン後、オミクロン変異株への過度な警戒感が和らぎ、世界的なリスクオフの流れから台湾加権指数が最高値を更新。外国人投資家の台湾ドル買いと年末の輸出企業のドル売りからドル台湾ドルは一時27.700を割り込んだ。12/28も引き続き、台湾加権指数が続伸し、最高値の更新を継続。ドル台湾ドルは27.65付近まで下落。12/29も台湾加権指数の最高値を更新する中、年末の輸出企業のドル売りもあり、一時27.631をつけたが、下値では外国人投資家のドルの買い戻しや輸入企業のドル買いもあり、27.67付近まで戻された。12/30は年内最終日であったが、翌日に祝日を控え、輸出・輸入企業からの売り買いが交錯し、揉み合いに。最終的には先週比0.2%ドル安台湾ドル高の27.690で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は485.1億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初12/27は114.34でオープン後、クリスマス休暇で休場のマーケットも多く動意に乏しくレンジで推移していたが、リスクオフの流れから円売りが先行し、米株式市場も上昇すると、114円台後半まで上昇。12/28もリスクオフの流れから115円を試すが上値は重く、114円台後半での推移が続いた。12/29はクリスマス休暇明けで市場参加者が徐々に戻ってくると、リスクオフの円売りが加速し、一時115円台をつけたが、中古住宅販売成約指数が予想に反し低下すると、ドル円は114円台後半に戻された。12/30もリスクオフの流れが継続し、一時115.20まで上昇。12/31は年末から東京市場が休場の中、特段材料もなく、動意に乏しく115円台前半の狭いレンジで推移。最終的に先週比0.7%ドル高円安の115.12で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.600-27.800
コロナ感染者の拡大は続くものの、リスクオフの流れは継続している。一方、月を超えて月初であることから実需勢の動きは一段落すると見込まれ、レンジでの推移となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：114.40-115.50
今週は米雇用統計を控えている。オミクロン変異株の感染拡大の影響が気になるところであるが、予想を下回る弱い内容となっても、一時的と見られ、利上げを躊躇する材料にはならないと見込む。ドル円の下値は堅く推移するであろう。

今週の予定

1/3 (MON)	日本休場
1/4 (TUE)	米12月ISM製造業景況指数
1/5 (WED)	米12月ADP雇用統計、米12月FOMC議事録
1/6 (THU)	台湾12月CPI、米11月貿易収支、米12月ISM非製造業景況指数
1/7 (FRI)	台湾12月貿易収支、米12月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。